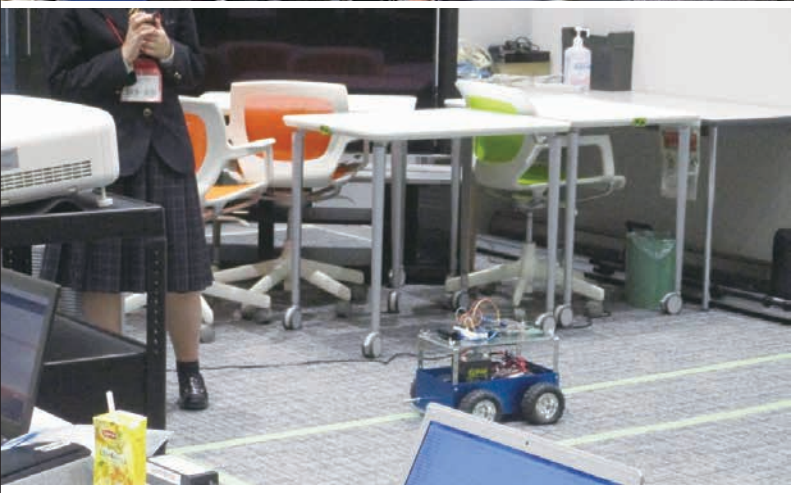
TPU NEWS

TOYAMA Prefectural University

ドンドンマスマス 富山県立大学

富山県立大学ニュース

NO.141
| Spring | 2025



p.2 Close-Up県大

起業家精神の育成に向けた富山県立大学の取組み

p.3 学長退任のご挨拶
p.4 退職にあたり
p.5-6 キャンパストピックス
p.7 インフォメーション
p.8 受賞情報
p.8 学生レポート
p.9 研究紹介
p.10 サークル紹介・スケジュール

起業家精神(アントレプレナーシップ)を育成する取組みの紹介じゃ!

「ドンドンマスマス 富山県立大学」プロジェクトリーダー ドンマス教授

Close-Up 県大

起業家精神の育成に向けた富山県立大学の取組み

近年、スタートアップに関心を向け、卒業後には大学で学んだ専門知識を活用して起業したいと考える学生が増えています。そのため、富山県立大学では、起業家精神(アントレプレナーシップ)を育成するプログラム、授業等の取組みを始めています。本号では、代表的な取組みについて紹介します。

スタートアップ特論

本学の研究成果の実装化及び学生の起業家精神を養成するため、令和5年度より開講しました。

本授業では、知財戦略や資金調達など、起業に必要な知識を学ぶだけでなく、ワークショップを通じたスタートアップ設立のシミュレーションも行います。

さらに、起業経験のある外部講師や人材コンサルタントを招き、実際の課題や失敗事例を交えた体験談を共有していただくことで、起業家精神を身に着けます。

シリコンバレー・アントレプレナー研修

令和6年度に初めて実施される取組みです。「スタートアップ特論」を履修した学生に向けたプログラムであり、米国カリフォルニア州シリコンバレーで数日間の様々な研修を行います。(主な研修内容は以下のとおり。)

多数のリーディングカンパニーを生み出したシリコンバレーで、現地の企業・大学を訪問し、訪問先関係者らとの意見交換、成果発表を通じて、実践的なアントレプレナーシップを学びます。

令和6年度 海外研修主な内容(予定)

1日目	現地到着 オリエンテーション、現地企業視察	等
2日目	スタンフォード大学視察	等
3日目	現地企業視察、社員との懇談 インキュベーション施設視察	等
4日目	現地企業視察、社員との懇談	等
5日目	成果発表会	

※内容は今後変更される可能性があります。

TOPIC

TPUシリコンバレーオフィスが、令和6年度より利用開始となりました。

米国シリコンバレーでの会議、研修など、今後の国際的な活動に利用される予定となっています。

学長退任のご挨拶

富山県立大学
学長
下山 勲

2019年4月に富山県立大学学長に着任し、6年の間、富山県立大学関係の皆様からご支援をいただき、学長職を完遂できました。深くお礼を申し上げます。この間、新しい建物の竣工や情報工学部新設に代表される教育研究組織の変革がありました。前学長や関係の皆様から引き継いだことではありますが、2019年の看護学部の開設や、2020年の中央棟竣工は富山県立大学にとって大きな進化のステップでした。その後、DXセンターの開設と建物の竣工、情報工学部の開設、情報工学部棟の着工、大学院看護学研究科をはじめとする大学院の新設、再編などの組織替えは思い出に残るステップでした。一方で、コロナ対応の3年間は、学生・保護者の皆様を始め、関係の皆様にご不便な期間となったことが、残念な記憶です。

ところで、無常という言葉どおり、私の10歳以降の記憶の60年間で、ずいぶん社会が変貌し、価値観が変わりました。1964年、日本での最初の東京オリンピックと東海道新幹線開通に代表される高度経済成長期。その後のオイルショック、バブル経済、そして、その後、長く続く低成長。この間、少子高齢社会や環境問題など喫緊の社会課題も浮き彫りになってきましたが、どのような世の中であっても、一貫して教育の重要性は変わらないと考えています。

私の知り合いに林業を営む家に生まれたかたがいらっしゃいました。営林として、木を植え、育てるのは長い時間のかかる仕事だということを聞かされました。私たち富山県立大学の仕事はプロとして世界的に活躍する人を育てる仕事です。つまり、独創的で価値のある研究を通して成し得る教育です。教育は未来を育てることであり、未来への投資であり、時間をかけて木を育て大きな森にすることに相当するものだと思っています。教育は、一朝一夕の効果が得られませんが、永続的に取り組むべき仕事です。今後も、10年後の2035年、20年後の2045年の世界を視野に入れて、将来のビジョンを議論し、富山県立大学の関係の皆様で教育の在り方を共有して進んでいただきたいと考えています。

昨年2024年は私にとって富山県立大学での仕事の最後の年として、これまでの仕事を2025年度に引き継げるよう、まとめをした年でした。私は3月末に退任することになりますが、引き続き、新学長のもと皆様のご尽力とご協力により、富山県立大学が発展していくこと、また、皆様にとって本年がよい年になるよう祈念して退任のご挨拶といたします。

退職にあたり

看護学部
看護学部長・
地域看護学講座 教授
佐伯 和子

富山県とのご縁の発端は、保健師指導者人材育成のアクションリサーチを厚生労働科学研究で取り組んだ20年前でした。研究終了後も研修会が継続され、年に2～3回富山を訪れていました。看護学部設立準備委員会の部会に関与し、開学1年半が過ぎた2020年から看護学部地域看護学講座の教員となりました。看護学科長、学部長の期間は、大学院看護学研究科看護学専攻と看護学専攻科公衆衛生看護学専攻（保健師教育課程）、助産学専攻（助産師教育課程）の開設準備と運営、そして2025年には大学院博士後期課程が開設されます。大学の成長発展とともに過ごした富山県立大学の4年半でした。大学の卒業生/修了生が富山の看護のリーダーとなり、富山県民の健康をまもり、人口減の富山に元気を提供してくれることを期待しています。何より、晴れた日に凛と聳え立つ剱岳と立山連峰を見ているだけで、富山に暮らす幸せを感じます。退職にあたり、短い期間でしたがご協力ご指導いただいた実習施設、教員、事務の皆様に深く感謝申し上げます。

工学部
環境・社会基盤工学科
教授
川上 智規

富山県立大学短期大学部環境工学科に赴任したのは32年前の平成4年でした。技術系の短期大学は全国的にも珍しく、ユニークな教育を展開できたと思います。しかし、科学技術の進展に伴い、体系的な技術の習得には短期大学の2年間では十分ではなくなってきました。そのような背景から四年制大学への移行は必須となり、学科を挙げて教育・研究のレベルアップに努力を重ねてきました。そして平成21年にようやく工学部の環境工学科を開設することができました。さらに学年進行とともに大学院も設置され、教育研究活動が大きく展開していきました。スリランカ、インドネシア、チュニジアなど海外の大学との学術交流協定を結ぶことができました。これらの協定に基づき博士後期課程に留学生を迎え入れ、博士（工学）の学位を授与することができたのは感慨無量でした。このように多くの経験を積むことができたのは、教職員の皆様方のおかげです。長い間本当にありがとうございました。

看護学部
看護学科
精神看護学 教授
田中 いずみ

私は、大学病院で看護師として17年間、その後前職の大学（看護学科）で教員として20年間勤めました。富山県立大学は2019年の看護学部開設時に着任し、早くも6年間を終えようとしています。

着任当時、竹内登美子学部長の下、教職員で力を合わせ、ワンチームで教育と研究に取り組もうという意気込み・エネルギーに圧倒されたことを覚えております。しかし間もなく、新型コロナウィルス感染症の影響により、オンライン授業や臨地実習の中止等予想外の出来事への対応に追われたことも思い出されます。それでも富山県立大学での教員生活を振り返ると、「楽しかった」という言葉に尽きます。いろいろな新しいこと、難しいことにも挑戦できたと思います。ただ、教員・研究者として本当にやり切ったのかと自問すると「もうちょっと」というところも正直ありますが、看護職としては本当に多様なキャリアを積むことができたと思います。今まで、私と仕事をし、関わってくださった教員の方々、事務の方々、学生を含め富山県立大学の皆様に心からの感謝を申し上げます。

看護学部
看護学科
在宅看護学講座 教授
河野 由美子

2019年看護学部の開設に伴い着任し、1年目は1期生だけで戸惑う学生と教員は、密な関係性を持つことができ楽しい教員生活が始まりました。

しかし、2020年からコロナ禍により慣れないオンラインの授業やゼミ学生と画面越しの面談で、いつまで続くのか不安でした。コロナ禍で思い出すのは、オンラインで演習中にデモンストレーションをした際、ズームがぼやけ、音声がミュートで、見えない、聞こえないとチャットが入る始末で、画面でおろおろしている教員がバラエティのようだったと学生の感想がきました。教員は疲労感一杯でしたが。臨地実習も同様に施設の受け入れが円滑にいかず、オンラインで訪問看護ステーションの看護師と事例について意見交換をしたこともありました。

今年、臨地実習を終了した3年生が、「先生が授業資料として作った終末期看護の表、めっちゃ役に立ちました」と嬉しそうに報告してくれ、大学教員生活の最後にこのような言葉をもらうことができとても幸せです。

6年間という短い期間でしたが、講座のスタッフに恵まれ議論を交わしながらも和気あいあいと講座の運営ができたことに感謝します。ありがとうございました。

Campus Topics

第35回 県大祭開催!!

10月19日(土)、20日(日)に「第35回県大祭」が開催されました。

「笑～ show ～」をテーマに、唐揚げやおでん等の模擬店、豪華芸能人によるトークショーやサークルによるステージ発表など、大きな賑わいを見せました。

学生はもちろん、地域の方にもご来場いただき、大盛況で終えました。

ネクスト・ファーマ・エンジニア養成コース

8月5日(月)～9月30日(月)の期間で、将来の富山県の医薬品産業を支える人材の育成と確保のため、富山県、富山大学と連携して製薬・バイオ医薬などの講義を提供し、県内製薬企業での現地企業見学体験会を開催した結果、全国から集まった71名が修了証を手にしました。

田中 耕一先生(本学特任教授)による特別授業

10月23日(水)、ノーベル化学賞受賞者である本学の特任教授 田中 耕一先生 (㈱島津製作所エグゼクティブ・リサーチ フェロー) による特別授業を大講義室で開講し、学部生を中心に約80名の学生が聴講しました。

授業では、質量分析の技術が癌やアルツハイマー病の早期発見や感染症の診断等、様々な分野に応用できることをご紹介いただいたほか、ある分野の考え方や技術を他の分野に応用することでイノベーションが起こる可能性があることなど、自らのご経験を踏まえた貴重なお話しをいただきました。

富山県機電工業会による特別講義

知能ロボット工学科では、富山県機電工業会による特別講義を開講しています。本講義は通算で10年目を迎え、富山県産業が得意とするアルミ、金型、工作機械、電気・電子部品、情報技術分野で活躍する本学のOB・OGを含む技術者を講師に迎え、講義・工場見学・グループワークを行っています。見学では、普段目にする機会のない企業の職場環境を直接学ぶ貴重な場となったほか、就職や進学に向けた先輩の具体的なアドバイスが大いに参考になったとの意見が多数寄せられました。また、アルミや機械・電気メーカーでも情報分野の技術者が幅広く期待されているなど、時代の変化に合わせた学びの必要性を実感する機会となっています。

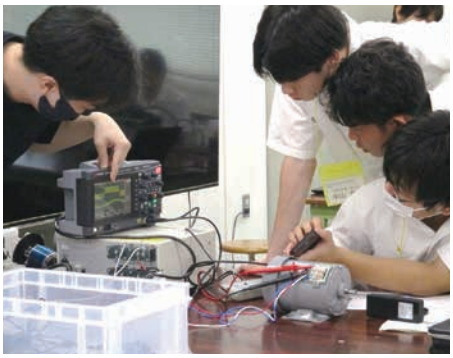
北陸コンピュータサービス(株)見学の様子

Campus Topics

令和6年度 高校生向け科学技術体験講座

8月に大門高校と呉羽高校、12月に富山東高校と富山いずみ高校の皆さんを招き、講座を実施しました。

受講生は、大学での専門的な講義や実験を大学の施設を利用して体験することで、科学・技術への関心を高めるとともに、担当教員やアシスタントの学生との会話からも、本学の様々な魅力を感じた様子でした。



8/6大門高校　電気電子工学コース
「パワーエレクトロニクスの基礎」

8/23呉羽高校　情報システム工学コース
「テレイグジスタンス入門：
基礎の学習とXRシステム開発演習」

12/9富山東高校　生物工学コース
「植物の花の色を化学の目で診る」

12/11富山いずみ高校　知能ロボット工学コース
「ロボットの“遠隔操作”とは?」

令和6年度 全学FD研修会

10月21日(月)に全教員を対象とした全学FD研修会を対面で開催しました。FDとは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組みのことです。

今年度は、学長講演と副学長による昨年と今年の県立大学の取組みについての発表、本学学生相談員による学生の自殺防止についての発表が行われました。

富山県立大学公開講座

知能ロボット工学科の教員が講師となり『人間とロボット/コンピュータを繋ぐ情報技術』をテーマに10～11月に公開講座を開催しました。延べ315名の受講者が参加され、「新技術により現象の見え方が変わることを面白く思った」などの感想をいただきました。

令和6年度 富山県立大学環境講演会

11月7日（木）に環境講演会を開催し、「SDGsのその向こうのリジェネラティブなあり方へ～バリ島から見た地球～」と題して（一社）Earth Company代表理事の濱川明日香氏にご講演いただきました。258名の参加があり、環境を再生しながら共繁栄を目指す「リジェネラティブな世界」にするためには何をすべきか考える機会となりました。

Information

Information 1 富山県立大学県民開放授業（オープン・ユニバーシティ）

～令和７年度前期受講生募集～

本学では、地域の方々に正規の授業を公開する県民開放授業（オープン・ユニバーシティ）を実施しています。簡単な手続きとリーズナブルな受講料で、教養教育科目や専門科目などバラエティに富んだ授業を学生と一緒に受講いただけます。

◆お申込み・お問い合わせ先

〈射水キャンパス〉
富山県立大学地域連携センター（受講生窓口）
〒939-0398 富山県射水市黒河5180
TEL：0766-56-0604　FAX：0766-56-0391
E-mail：openuniv@pu-toyama.ac.jp

〈富山キャンパス〉
富山県立大学富山キャンパス事務局（受講生窓口）
〒930-0975 富山県富山市西長江2丁目2番78号
TEL：076-464-5410　FAX：076-422-6070
E-mail：openuniv@pu-toyama.ac.jp

URL：https://www.pu-toyama.ac.jp/regional_alliances/lifelong_learning/open_university/

◆募集期間　**令和7年3月21日（金）～4月1日（火）**

◆授業期間　**令和7年4月 9日（水）～8月7日（木）**

◆公開科目

【一般教養科目】
経済学Ⅰ、心理学Ⅰ、数学Ⅰなど

【工学部・情報工学部専門科目】
機械力学、バイオ医薬工学、ロボット工学基礎など

【看護学部】
感染看護学、看護ケアと工学、成人看護学概論、小児看護学概論

◆受講料　**1科目5,000円**（複数科目の受講可能）
※研究協力会員には半額助成あり。

Information 2 学位記授与式・修了式

令和6年度富山県立大学学位記授与式・修了式を以下のとおり挙行します。

なお、実施方法等が変更となる場合は、県立大学HPでお知らせしますので、ご確認ください。

【概要】

◆日　時　**令和7年3月22日（土）午前10時30分～**

◆会　場　**アルビス小杉総合体育センター**
（射水市戸破3111番地）

◆その他
・駐車場は数が限られていますので、ご留意願います。
・また、小杉駅（南口）から会場行きシャトルバスを用意する予定としておりますので、シャトルバスのご利用をお願いします。
・当日の式典の模様は、富山県立大学HPにて同時中継します。

Information 3 公立大学法人富山県立大学安否確認システム（ANPIC）

●安否確認システム（ANPIC）について

本学では「公立大学法人富山県立大学安否確認システム（ANPIC）」を導入しています。富山県で「震度5弱」以上の地震が発生したときは、あらかじめ学生の皆さんに登録していただいているメールアドレス等にANPICから安否確認メールが自動送信され、受信した学生は安否状況を報告することになっています。

上記以外の災害発生時等においては、発生した災害による影響を鑑み、必要に応じて大学の管理者が手動でメール配信を行います。

●安否検索

ANPICは、ご家族が、本学の学生の安否情報を検索して、確認することができます。

電話でのお問い合わせだと、時間がかかる場合がありますので、ご家族の方は、できるだけ【ANPICログインサイト】のURL※にアクセスして、安否検索をご利用くださるようお願いします。

なお、安否情報は、平常時は非公開に設定しています。大規模災害時には、ご家族が学生及び教職員の安否を確認できるよう直ちに公開されます。

※本学のホームページの安否確認システムのサイトに掲載しています。

教員の受賞
受賞日順、学科名、職位は受賞時のもの

兵動 太一 講師／工学部 環境・社会基盤工学科
地盤工学会北陸支部
地盤工学会北陸支部賞「研究・建設部門」
Influence of fines on the monotonic and cyclic shear behaviour of volcanic soil “Shirasu” R6.4.23受賞

布施 陽太郎 助教／情報工学部 データサイエンス学科
日本知能情報ファジィ学会
SOFT Emerging Research Leader Award
SOFT Emerging Research Leader Award has been presented to the researcher who took a leadership in emerging research area and delivered Young Research Invited Talks at SCIS&ISIS2024. R6.11.12受賞

片田 裕子 教授、濵野 初恵 講師／看護学部 看護学科
公益社団法人日本看護科学学会
第44回日本看護科学学会学術集会 優秀演題ポスター発表賞
「Current situation and challenges of outpatient nurses invlved in interviewing diabetic patients with reduced vision」 R6.12.8受賞

竹井 敏 教授／工学部 医薬品工学科
日産化学株式会社　2024年度発明賞
GF52系ギャプフィル材 R6.12.17受賞

古澤 之裕 准教授／工学部 医薬品工学科
公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団
「食創会 ～新しい食品の創造・開発を奨める会～」
第29回 安藤百福 発明発見奨励賞
食物繊維による免疫調節の研究 R6.12.23受賞

高田 啓 講師／工学部 生物工学科
公益社団法人 日本農芸化学会
2025年度農芸化学奨励賞
微生物におけるタンパク質合成反応の動態制御機構に関する研究 R7.3.4受賞

学生の受賞
学科名、学年、指導教員の職位は受賞時のもの

池上 怜汰 博士後期課程 総合工学専攻2年
LIFE2024
若手プレゼンテーション賞
指導教員：教授 小柳 健一 R6.9受賞

沼澤 蓮音 博士前期課程 環境・社会基盤工学専攻1年
令和6年度土木学会全国大会
優秀講演者賞
指導教員：教授 呉 修一 R6.10受賞

中川 歩夢 工学部情報システム工学科4年
計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会2024
立山科学賞（スポンサー賞）
指導教員：教授 中村 正樹 R6.11受賞

脇谷 銀次 博士前期課程 電子・情報工学専攻1年
2024年度電子情報通信学会北陸支部
学生優秀論文発表賞
指導教員：教授 大寺 康夫 R6.11受賞

長崎 慎也 博士前期課程 電子・情報工学専攻1年
2024年度電気・情報関係学会北陸支部連合大会
学生優秀論文発表賞
指導教員：教授 吉河 武文 R6.12受賞

先田 涼真 博士前期課程 電子・情報工学専攻1年
2024年度電気・情報関係学会北陸支部連合大会
学生優秀論文発表賞
指導教員：教授 吉河 武文 R6.12受賞

林 拓魅 博士前期課程 知能ロボット工学専攻1年
伊藤 開生 工学部知能ロボット工学科4年
日本設計工学会 設計コンテスト2024
“形状設計・3DAコース” 努力賞
指導教員：教授 神谷 和秀、准教授 伊東 聡 R6.12受賞

松井 蓮太郎 工学部機械システム工学科4年
令和6年度高分子学会北陸支部若手研究会
優秀ポスター賞
指導教員：准教授 遠藤 洋史 R6.12受賞

億 悠生 博士前期課程 生物・医薬品工学専攻2年
第73回高分子学会北陸支部研究発表会
優秀研究賞
指導教員：教授 小山 靖人 R6.12受賞

播磨 雄大 博士前期課程 環境・社会基盤工学専攻2年
第4回地盤工学会北陸支部
ユースネットワーク研究発表会　発表賞
指導教員：講師 兵動 太一 R6.12受賞

飯塚 悠貴 博士前期課程 環境・社会基盤工学専攻2年
第4回地盤工学会北陸支部
ユースネットワーク研究発表会　発表賞
指導教員：講師 兵動 太一 R6.12受賞

林 飛隆、Goo Senlean、森田 麻友、大島 美咲 工学部 医薬品工学科3年
2024オレゴンカップ 英語プレゼンテーションコンテスト
最優秀賞（主催 富山県、オレゴン州）
指導教員：教授 竹井 敏 R6.12受賞

仙田 夢翔 博士前期課程 生物・医薬品工学専攻1年
第29回日本フードファクター学会
Young Investigator Award
指導教員：准教授 安田 佳織、特別研究教授 榊 利之 R6.12受賞

八窪 優奈 博士前期課程 生物・医薬品工学専攻1年
第66回 リバネス研究費
incu・be賞奨励賞
指導教員：教授 竹井 敏 R7.1受賞

Report from students 学生レポート

行動力

工学部 環境・社会基盤工学科 4年 石黒 詩歩

4年後期から天文部に入部しました。もともと友人が複数名所属しており興味はあったものの、新入生ではないタイミングで入部することになかなか勇気が出ず、変化のない日々を送っていました。ある日、取り組んでいる研究に関わるセミナーがあると紹介され、気になったので行ってみると、そこにはまさに「行動力」の塊のような人たちがいました。「自分の思い描く未来を実現するには今何をすべきかを考え、即行動をする」という思いをもった方々のお話を聞き、意見交換をする中で、「私はこのまま大学生活を終えるのか、行動をしてより多くの経験を得るのか、どちらがより理想的な未来に近づけるのか」という問いが生まれ、行動に移しました。

初めて参加した天体観測で▶撮影したオリオン座

▼あたたかく迎え入れてくれた4年生たちとの写真（上段中央が石黒さん）

大学院に進学することもあり、無事に入部してたくさんの新たな出会いと学びを得ています。いつ始めても遅くない。思い立ったが吉日！行動することに意味があることを学びました。残りの2年間も精一杯楽しみたいです。

研究紹介-①

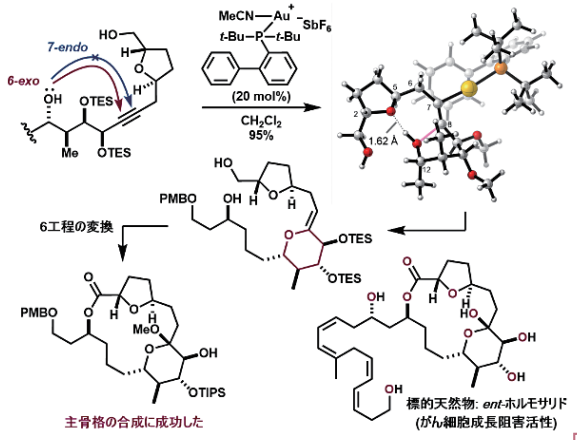
工学部 生物工学科／教授 占部 大介

くすりづくりの基盤技術－天然物合成

私が所属する生物工学科はバイオテクノロジーを学ぶ学科です。よく耳にするのは、バイオテクノロジーって生物なの？化学なの？という質問です。答えは、どちらも、です。本学科は、生命現象を化学で理解してテクノロジーにする、をキャッチフレーズにして教育・研究を行っています。学科を構成する研究室の専門領域は広く、生物学的な研究室から化学的な研究室までありますが、どこの研究室も程度の差こそあれ、どちらの学問にも足を突っ込んでいるのが特徴です。

その中でも私の研究室は化学（有機化学）に大きく振れています。生物が体内で生産する活性物質、いわゆる天然物の中にはくすりの種になる可能性を秘めたものが多くあります。私たちは化学反応を組み合わせて天然物をフラスコ内で合成する研究を行っています。実際にくすりをつくっているわけではなく、決して作れそうにない複雑な構造をもつ天然物を独自の方法で合成する、といういかにも大学らしい研究です。簡単には作れないのでどう工夫するか？というのが学術的な価値になります。最近では、分子の動きをコンピューターで予測して合成法を探索し、それに従って実験する、といった化学と情報学を融合させた新しい手法の確立にも力を入れています。

この研究は世の中のためになるの？と思うかもしれませんが、私たちの研究は、実際にくすりや化成品を生産する製薬会社や化学会社の基盤技術に直結します。研究室の卒業生の多くは、化学合成を使ったものづくりの会社に就職しています。



研究紹介-②

看護学部 母性看護学講座／准教授 小林 絵里子

母乳育児をしたい母親を支援するための母乳成分の分析

“約90%”これは、子どもが産まれたら、母乳をあげたいという妊娠中の母親の割合です。ところが実際に出産後1カ月の時点で、母乳だけで育児ができている母親は残念ながら40%に満たないという現状があります。

この理由として、「母乳が出ているのかよくわからない」「母乳だけで育てられる自信がない」「母乳が足りていないのではないか」という母親の不安が取りざたされますが、支援している側のスタッフも目安がよくわかっていない、ということもあるのではないか、という観点が私たちの研究の出発点です。出産直後の母乳と、しばらくたってからの母乳の成分は変化しています。この変化がベッドサイドで簡単にわかると、支援するスタッフが自信をもって母親に伝えていけるのではないか、母乳育児をしたい母親が母乳育児できるようになるのではないかと考え、イギリスの大学と、本学工学部と連携をしながら母乳の成分分析を行っています。今後は実際に臨床で応用ができるように、継続して研究を進めていく予定です。

授乳する母親

プロジェクト企画・運営サークル Engine

TPU Circles サークル紹介

プロジェクト企画・運営サークルのEngineです！当サークルではやりたいことを実現する力を身につけるべく、学内・学外問わずプロジェクトの企画や運営をしています。

活動の一環として、学生の声を元に学生生活を助ける公式LINE「トミコエ」を運営しています。例えば「廃棄パンを救い隊」は実際に学生の声から生まれたコンテンツです。これは店舗で出る廃棄のパンを学内で無料配布することで、フードロス削減と学生の食生活向上を目指しています。

個人で様々な活動をしている学生も所属しており、大学での研究から在学中に起業した学生や、マルシェで飲食物を販売するなど、別の分野に興味を広げて活動する学生もいます。

実際にチャレンジしたことで、興味のないと思い込んでいたことがやりたいことに変わった学生もいます。チームでの活動や、個人の挑戦でも、それぞれがやりたいことを追求する学生生活を送っています。

ぜひやりたいことをやりきる充実した学生生活を共に築きましょう！

Instagram: @engine_tpu

Schedule
スケジュール【令和7年度】

April 4月
- ●7日(月) 入学式
- ●9日(水) 前期授業開始

射水キャンパス
- ●3月27日(木)～4月8日(火) オリエンテーション
- ●2日(水)、3日(木)、4日(金) 学生定期健康診断

富山キャンパス
- ●1日(火)～3日(木)、7日(月)、8日(火) オリエンテーション
- ●1日(火)、8日(火)～10日(木) 学生定期健康診断

May 5月
- ●下旬 研究協力会総会

June 6月
- ●1日(日) 学生球技大会

射水キャンパス
- ●下旬 大学院工学研究科入学者選抜

July 7月
- ●上旬 サークルリーダー研修会
- ●下旬 対面型オープンキャンパス（工学部、情報工学部、看護学部）

※令和7年2月1日現在の予定であり、今後予定が変更になる可能性があります。最新の情報は大学HPをご覧ください。

編集後記

富山県立大学ニュース第141号では、「起業家精神の育成に向けた富山県立大学の取組み」について紹介しています。最近は起業に関心のある学生が増えていることから、本学では、起業家精神（アントレプレナーシップ）を育成するプログラムを始めています。特に、本年度より利用開始されたTPUシリコンバレーオフィスにて「シリコンバレー・アントレプレナー研修」が実施されます。多くの有名企業を生み出したシリコンバレーにて、現地の企業・大学への訪問、訪問先での意見交換などを通じて、実践的なアントレプレナーシップを学ぶことになっています。起業の本場であるシリコンバレーに実際に訪ね、現場の空気に触れ、さらに現地の関係者の方々と直接意見交換できることは学生にとって極めて貴重な体験になると思います。学生たちには、自分の知見をさらに高めるためにぜひ参加を検討してもらえればと思います。

さて、本年度の県大ニュースはこの号が最後になります。早いもので本年度が終わりに近づいていることを感じながら執筆しています。本年度は新たに情報工学部がスタートし、さらに新棟の建設が始まり、大学が拡張されていることが視覚的にもわかる年度となりました。大学施設の拡充とともに学生たちも充実した大学生活を過ごしてくれることを期待しています。そして、県大生として自信をもって社会に飛び立ってくれることを願っています。

（広報委員長　石坂 圭吾）

公立大学法人 富山県立大学

富山県立大学ニュース | No.141 | 令和7年3月発行 富山県立大学広報委員会
富山県立大学ニュースは、後援会の助成をいただいて発行しています。
〒939-0398　富山県射水市黒河5180
TEL 0766-56-7500（代）　FAX 0766-56-6182　https://www.pu-toyama.ac.jp/

VEGETABLE OIL INK
この用紙は資源保護のためインキは植物油インキを使用しています。